

事業名	雌牛改良促進事業（肉用牛広域後代検定推進事業、育種牛群整備事業）																																										
予算区分	県単 （17,494千円）	担当	飼養技術研究室 生産性向上研究グループ 改良技術研究室 繁殖システム研究グループ 育種改良研究グループ																																								
事業期間	継続 （平成22年度～）	協力関係	県下4家畜保健衛生所																																								
事業目的	<p>計画的な交配により優良繁殖雌牛群を所内に整備するとともに、生産性の高い農家を育成することで、優秀な種雄牛造成の下地を形成し、もって岡山和牛の改良増殖に資する。</p> <p>また、候補種雄牛の作出は基より、候補種雄牛の産肉能力検定に必要な後代検定牛を生産する。</p>																																										
<p>○ 本年度事業のねらい 肉用牛の改良を計画的に行い、産肉能力に優れた種牛の確保と、生産性の高い農家を育成し、肉用牛の生産振興を図る。</p> <p>事業1 優良繁殖雌牛の生産・保留 （事業の内容） 所内において、育種能力の優れた繁殖雌牛群を造成するため、ゲノミック評価及び育種価の高い雌牛を選抜し人工授精するとともに、採取した受精卵を低育種価牛へ移植することで、優良繁殖雌牛を生産する。</p> <p>事業2 候補種雄牛の後代検定牛の生産 （事業の内容） 効率的に後代検定子牛の生産を行うために、所内繋留の繁殖雌牛に候補種雄牛を交配する。</p> <p>事業3 直接検定牛の生産 （事業の内容） ゲノミック評価及び育種価の高い雌牛へ人工授精を行うとともに、選抜された雌牛から採卵した受精卵の移植により直接検定牛の生産を行う。</p> <p>事業4 岡山県下における優良繁殖雌牛群の造成（広域後代検定推進事業） （事業の内容） 県下において、生産性の高い農家を育成するため、所内及び県内繁殖農家でゲノミック評価及び育種価の高い雌牛から受精卵を採取し、事業1及び3に供するとともに、県下の生産者へ供給する。</p> <p>事業5 広域後代検定推進事業により生産された産子の調査及び保留促進 （事業の内容） 本事業により生産された産子について、雌産子は県内保留、雄産子は候補種雄牛としての選抜を実施するため、県民局、家畜保健衛生所及び全農岡山県本部等と連携を図りながら産子調査を実施する。</p> <p>○ 前年度までの成果 事業1 優良繁殖雌牛として19頭（R3.4月～R4.2月）を生産した。ゲノミック評価が判明した牛13頭（R3.4月～8月生）のうち、発育、体型等を考慮し6頭を選抜、保留した。R3.4月から8月生まれの県下の牛でゲノミック評価が行われた牛41頭と選抜牛のゲノム育種価は次表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>個体数</th> <th>枝肉重量</th> <th>ロース芯面積</th> <th>バラ厚</th> <th>皮下脂肪厚</th> <th>歩留基準</th> <th>BMS</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県平均</td> <td>41</td> <td>13.199</td> <td>1.971</td> <td>0.089</td> <td>0.015</td> <td>0.147</td> <td>0.184</td> </tr> <tr> <td>所内</td> <td>13</td> <td>16.279</td> <td>4.036</td> <td>0.071</td> <td>0.062</td> <td>0.317</td> <td>0.760</td> </tr> <tr> <td>うち選抜牛</td> <td>6</td> <td>36.322</td> <td>6.977</td> <td>0.250</td> <td>0.149</td> <td>0.540</td> <td>1.487</td> </tr> <tr> <td>県平均との選抜差</td> <td></td> <td>23.123</td> <td>5.006</td> <td>0.161</td> <td>0.134</td> <td>0.393</td> <td>1.303</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業2 後代検定牛として22頭を生産した。（R4.2.28現在） （内訳：藤広花6頭、福乃茂8頭、宗岡光8頭）</p> <p>事業3 直接検定牛の候補を19頭を生産した。また所内生産牛5頭について直接検定を実施した。（生産した候補牛の内訳：美恵茂産子7頭、新岡光81産子2頭、新花百合産子2頭（他） （検定を実施した牛の内訳：美津照重1頭、隼勝忠1頭、福之姫2頭、美国桜1頭、新岡光812頭、美恵茂1頭）</p> <p>事業4 当所繋留の雌牛に対して採卵を実施し、正常卵83個（1回平均6.3個）を採取した。また、県内農家繋留の雌牛9頭に対して採卵を実施し、正常卵119個を採取した。令和3年度に配布した受精卵は187個であった。その内訳は、新鮮卵27個、ダイレクト凍結卵25個、ガラス化凍結卵135個であった。（R4.2.28現在）</p> <p>事業5 これまで供用した供卵牛124頭から作出された受精卵産子の保留状況調査を実施した結果、470頭が繁殖雌牛として飼養されており、子牛登記された雌牛の35%が保留されていた。（H30.10時点）</p>				区分	個体数	枝肉重量	ロース芯面積	バラ厚	皮下脂肪厚	歩留基準	BMS	県平均	41	13.199	1.971	0.089	0.015	0.147	0.184	所内	13	16.279	4.036	0.071	0.062	0.317	0.760	うち選抜牛	6	36.322	6.977	0.250	0.149	0.540	1.487	県平均との選抜差		23.123	5.006	0.161	0.134	0.393	1.303
区分	個体数	枝肉重量	ロース芯面積	バラ厚	皮下脂肪厚	歩留基準	BMS																																				
県平均	41	13.199	1.971	0.089	0.015	0.147	0.184																																				
所内	13	16.279	4.036	0.071	0.062	0.317	0.760																																				
うち選抜牛	6	36.322	6.977	0.250	0.149	0.540	1.487																																				
県平均との選抜差		23.123	5.006	0.161	0.134	0.393	1.303																																				